

山田やすゆき市政報告

日本共産党岩国市議会議員

海士路町2-55-7
31-2985

しん 赤旗

お読みください
日刊 月 2900円
日曜版 月 800円

六月議会は六月五日から二十五日まで開会されました。一般質問には十七名登壇しました。私、山田泰之は「市町村合併問題」「道路問題」「農業問題」「環境問題」について質問を行いました。



市町村合併問題

「住民サービスは高く、負担は低く」はどうなる？

合併にあたって、岩国市での住民の負担とサービスはどのように調整するのか。さらに法定協議会で新庁舎の建設費（104億円）は「基金と補助金」のみで借金をしないで建設することだったが、市庁舎建設事業の計画とその金額の内訳について質問を行いました。

当局は、総合的な住民福祉の向上や可能な限り「行政サービスは高い方法へ、負担は低い方」へ合わせるように努めることを基本にするとしながらも、適正な受益者負担等を考慮し、新市の健全な財政運営を心がけるとしました。

庁舎の建設費用の概算は約104億円。その内訳は、庁舎の本体工事費等が約92億円、設計や調査等の業務委託費が約5億円、現庁舎や市体育館の解体費、仮設の駐車場整備費、備品購入等が約7億円。

建設財源については、国と協議を行なっていると答弁しました。

尚、市町村合併推進特別委員会では、山田の質問に答えて「補助基金」とはSACO関連（沖縄の普天間基地のKC130空中給油機を岩国基地に移駐する見返りなど）と答弁、資金が不足した場合には起債をする、としました。

国立岩国病院前の

混雑解消対策を求める

国道188号の渋滞解消のため「岩国南バイパスの南伸計画」と「昭和町―藤生線」の進捗計画を尋ねると共に早期に道路建設の実現を求めました。

又、国立岩国病院の入り口の踏み切りを挟んでの交差点は大変混雑し、危険であると指摘し、一つの案として、「市道藤生町24号線と市道黒磯町1号線を結ぶJR山陽本線の山側に新たな道路」を建設することを提案しました。

当局は国道188号のバイパスの南伸計画は「岩国柳井間地域高規格道路建設促進期成同盟会」を通じて国土交通省、山口県等に要望していると答弁。

さらに昭和町―藤生線の灘町側は、岩国市の財政状況から、岩国南道路及び岩国大竹道路のアクセス道路の元町錦見線改良事業が緊急に整備する必要性のため、当分の間、中止としました。

又、国立岩国病院前の混雑解消対策として、当局は「既存市道が狭小であること、JRの踏み切りと平面交差点であること

と、家屋が密集していること、国病から南方面の方々は利用できない」等々、困難な理由ばかり述べ、この場所の混雑解消・安全対策を何ら示しませんでした。

私、山田は岩国市を含め山口県や周辺の市町村で、広島駅、岩国駅間のシティ電車（10分間隔運転）を柳井駅まで延長するよう運動しているが、これが実現したら国立岩国病院前の踏み切りは「開かずの踏み切り」になると指摘し、強く混雑解消の対策を求めました。

アルゼンチンアリ 対策を求める

私は黒磯地区の住民から「仏壇のお鉢にアリが群がる、食卓の食べ物に群がる、冷蔵庫の中まで入り込む」さらに農作物にも被害が出ている等を示し、対策を求めました。

当局は五月九日に実態調査を実施。調査地区は黒磯地区、元町地区、岩国駅前周辺の3地区22ヶ所を実施。黒磯町周辺3地点、元町周辺1

地点、岩国駅前周辺2地点計6地点でアルゼンチンアリが確認されたと答弁。

又、岩国市の今後の方針として、東京大学農学部の実験結果を注意深く見守る、今後、国や山口県に情報提供や協議等を行なうとしました。

農作物被害に対しては、農薬の使用等を県と連携を取りながら情報収集に努め慎重に対処するとしました。

イノシシの

被害対策を

南北河内、藤河、阿品、御庄、師木野、通津と岩国周辺全域に多大な被害が出ている。近年、観光地横山周辺にも出没、強力な対策をとらなければ、市街地への出没も避けられない。農家の自衛にも限界あり、行政、農協と一丸となつての対策が必要。関係機関とも十分協議し早急な対策を求めました。

当局は昨年度から移動式捕獲器を購入し、この際多くの方に狩猟免許を取得して頂き、自衛ワナの活用を期待するとしました。

山田は、イノシシ対策費の補助金の増額を求めました。